

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生涯にわたり学習する基盤を培い、自らの個性を生かしながら主体的に課題を解決する力を育み、生徒の可能性を伸長する学校をめざす。

- 急速に変化する社会に対応できる確かな学力を育成し、思考力・判断力・表現力を高める機会を与えることで、個性を伸ばす教育の充実を図る。
- 自ら将来の夢と志を描き、自己の可能性を伸ばすとともに、自らの力で進路を実現し、地域や社会に貢献できる人材の育成をめざす。
- 生徒が安全で安心して高校生活を送れるよう、それぞれの思いや環境・状況の違いを理解し、自他の生命や権利を大切にす意識の醸成に努める。

2 中期的目標

総合学科4年めを迎え、「部活動の盛んな進学をめざす総合学科づくり」を目標に、以下の5点を学校の中期的目標とする。

- 思考力・判断力・表現力など確かな学力を育成するため、教員の授業力向上を図る。
 - 授業力向上委員会及びICT活用研究会会議を中心として、「授業の質の向上」と「学びの保障」に取り組むとともに、1人1台端末の活用による学習支援を進め、家庭学習時間の増加を図る。
 - HR教室の電子黒板機能付プロジェクタやアクティブラーニングルームを有効に活用して、学校全体でICT機器を活用したアクティブラーニングやユニバーサルデザインの授業実践をすすめる。
(学校経営推進費 H30 「なぎさスマイルプロジェクト～授業に笑顔を～」 電子黒板機能付き超短焦点プロジェクタ 18教室 3,402,000円)
 - 授業アンケートを有効に活用するとともに、研究授業や教員同士の授業観察等の活性化を図る。
※生徒向け学校教育自己診断「楽しくて、わかりやすい授業が多い」を毎年3%引き上げて、令和6年度には70%以上にする。
(H30 67.2%、R1 63.3%、R2 度63.5%、R3 63.2%)
- 夢や希望の実現に向かって主体的に学び努力するキャリアデザイン力を育成するため、さらなる進路指導の充実を図る。
 - キャリアサポートルームを有効に活用して、「10年後の自分」を考えさせる。
 - アクティブラーニングルームを有効に活用して「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」、LHR等で系統的なキャリア教育を実践し、本物や最先端に触れさせる。
 - 進学講習など授業外の取組みを組織的に行う体制を充実させ、生徒の希望する進路の実現をめざす。
※令和6年度に向けて進路希望実現率90%以上を維持する。(H30 88.5%、R1 93.1%、R2 92.1%、R3 96.0%)
※難関大学(関関同立・産近甲龍)の合格者を令和6年度には20名以上をめざす。(H30 5名、R1 4名、R2 6名、R3 4名)
- 基本的な生活習慣を確立させ、社会人基礎力(前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力)を育成するため、生徒指導の徹底と生徒の自主性の伸長を図る。
 - 基本的な生活習慣やマナー指導、感染症の拡大防止について、各分掌が連携して取り組み、安全で安心できる学習環境づくりを行う。
 - 自分の考えを他者に伝え表現するコミュニケーション力を育成するため、HRや委員会・生徒会、学校行事のさらなる活性化を図る。
 - 部活動への参加を奨励して、目標に向かって努力することの大切さを学ばせる。
 - 地域連携の一層の充実を図り、自主的・積極的に社会に参画する意識を醸成する。
※年間遅刻者数を毎年5%ずつ減少させ、令和6年度には1000以下にする。(H30 1631、R1 1273、R2 1226、R3 1275)
※生徒向け学校教育自己診断「学校生活は充実している」を令和6年度には90%以上にする。
(H30 86.4%、R1 86.4%、R2 86.2%、R3 84.8%)
※部活動加入率を毎年2%ずつ引き上げて、令和6年度には65%以上にする。(H30 55.2%、R1 60.1%、R2 61.7%、R3 58.7%)
- 多様な考え方や立場を理解し、他者と協力・協働する社会形成能力を育成するため、人権教育や特別支援教育のさらなる充実を図る。
 - SNSなどの新たな状況にも対応した高校3年間を通した人権教育を推進する。
 - 特別支援教育に関しては、高等学校支援教育力充実事業のサポート校としての取組みを充実させる。
 - 生活看護実習室を活用して、知的障がい生徒自立支援コース設置校として取り組んできたユニバーサルデザインの授業実践をあらゆる教育活動に広げていく。
※生徒向け学校教育自己診断「学校では人権の大切さについて学ぶ機会が多い」を毎年2%引き上げて、令和6年度には85%以上にする。
(H30 82.9%、R1 79.6%、R2 75.9%、R3 75.4%)
- 魅力ある総合学科づくりに全教職員で取り組み、「部活動の盛んな進学をめざす総合学科」を地域に定着させていく。
 - 高大連携を進めるとともに、特色ある教育課程の編成を行うなど、カリキュラム・マネジメントに力を入れる。
 - 中高連携をさらに進めるなど、広報活動を活性化させる。
 - 全校一斉退庁日やノークラブデーの明確化により教職員の時間外勤務の削減を図るなど、働き方改革に取り組んでいく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>※数字は学校教育自己診断の各項目における肯定的評価の割合を示す。</p> <p>【生徒】 令和4年3月に総合学科1期生が卒業し、本校は総合学科完成年度2年めを迎えた。 生徒アンケートの結果を見ると、全質問項目において肯定的評価が増加しており、それは、ここ数年間に本校が推し進めてきた「挨拶をする、時間を守る、身だしなみを整える、毎日机に向かって学習するなど、当たり前のことをあたりまえに実行する」という生徒指導の基本方針、基礎的・基本的な学力のみならず、実践的な学力をも身につけさせるための仕掛けづくり、自ら学ぶ意欲を高め着実に学力をつけるための環境整備、生徒自身が自らの将来を見据え、進路実現に向けて能動的に行動するための力をつけさせる「産業社会と人間」を中心としたキャリア教育、生徒の自主性を伸ばし、自ら考え自ら行動するための基礎を築く部活動や各種行事等の活性化など、様々な取組みが相互に関連し合いながら、着実に成果を上げ始めている結果と言える。</p> <p>以下、詳細にみると、「学校生活は充実している」(肯定的評価 89.9%、昨年比+5.1ポイント)、「この学校に来てよかった」(同 81.3%、同+6.8ポイント)、「学校行事やHR活動には皆が楽しく参加している」(87.8%、同+5.8%)、「部活動に積極的に参加している」(同 55.4%、+3.1ポイント)の項目からわかるように、授業</p>	<p>[第1回] 7月15日(金)</p> <p>○分掌・学年の取組みについて</p> <p><総務事務部>学校説明会や個別相談会など学校広報の取組みについて</p> <p><教務部>令和5年度使用教科用図書、観点別学習の評価について</p> <p><生徒指導部>遅刻指導、私物管理にかかわる取組みについて</p> <p><進路指導部>昨年度の進路実績、学習支援クラウドサービスの試験的活用について</p> <p><保健部>コロナ対策の現状、夏季のマスク着用、修学支援の取組みについて</p> <p><特別活動部>体育祭にかかわる取組みについて</p> <p><各学年>学年概要、行事等の取組みについて</p> <p>・保護者の視点からすると、枚方なぎさ高校はよい学校と言える。学習指導、生徒指導、部活動指導ともに総合的に熱心に取り組んでいる。</p> <p>・コロナ科にあつてPTA活動は極めて制限されているが、要望があればそれに応じたい。PTAと生徒会の交流など、学校支援の方法はあると考える。</p> <p>・遅刻指導の目標設定、達成数値の置き方は適当かの検証が必要ではないか。</p>

府立枚方なぎさ高等学校

以外にも行事や部活動に積極的に参加する生徒が増え、多くの生徒が学校生活を充実したものにとらえていることが見て取れる。

部活動に関しては、積極的に参加しているとする生徒が半数をやや上回る程度ではあるものの、歴年でみれば増加傾向にあり、本校のコンセプトの2本柱の1つである「部活動の盛んな」総合学科に向けて着実に歩を進めているといえるのではないだろうか。

また、「いろいろと工夫がされている授業が多い」(同 80.2%、同+9.9ポイント)、「楽しくて、わかりやすい授業が多い」(同 72.8%、同+9.7ポイント)、「少人数・習熟度別の選択授業は充実感がある」(同 78.4%、同+6.2ポイント)など、授業に関係する項目も向上しており、授業力向上委員会を中心とした取り組みが功を奏した結果といえる。

「この学校の先生は信頼できる」(同 76.8%、同+4.7ポイント)、「先生は悩みや相談ごとにはいていねいに応じてくれる」(同 79.8%、同+1.3ポイント)、「学校ははじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」(同 81.3%、同+0.1ポイント)のように、多くの生徒たちは教員を基本的には信頼してくれているものの、「学校生活についての先生の指導は納得できる」(同 66.5%、同+6.6ポイント)の項目はやや低い数値となっており、納得感のある指導を進めていく必要性を教員間で共有しなければならない。

ここ数年来の本校の課題であった、自宅学習時間についての項目「授業以外での学習時間は1日1時間以上である」(同 33.8%、同+8.6ポイント)についてはまだまだ低水準ではあるものの、どの学年においても増加の兆しが見え始めている。特に3年生ではその伸びが大きく、今年度3年生を2年次と比較すると昨年度比+19.1ポイント増加している。1年次の「産業社会と人間」や、学年及び学習指導室を中心とした進路指導、各教科の講習などを通じて、生徒の学習意欲が高まってきたことが伺える。

【保護者】

ここ2年程は、本アンケートに多くの保護者の皆様が回答くださり、高い回収率を記録してきたが、今年度、用紙配付によるアンケート方式をやめ、ゲーグルフォームを用いた調査方法に変更した影響もあり、回答数が昨年度の半分程度にとどまってしまった。より幅広いご意見と、正確な意見分布を得て、学校運営に活かすために、来年度以降の調査方法については一層の工夫が必要である。

保護者と生徒のアンケート結果を比較すると以下の例のように同一の項目についてであっても数値に開きがあり、保護者と生徒の学校のとらえ方が一様でないことがわかる。また、その中に本校の学校運営上の課題を見出すことができそうである。

<例1>

保護者「学校は生活指導をしっかりとやっている」

(肯定的評価 80.4%、昨年度比-10.8%)

生徒「学校生活についての先生の指導は納得できる」

(同 66.5%、同+6.6ポイント) →差 13.9ポイント

この項目では保護者はより一層しっかりと生活指導を望む一方、生徒はより納得感のある指導を望んでいることがわかる。規律ある学校生活を過ごせるよう、生徒が納得し、自ら行動を起こせるような指導を追求していく必要がある。

<例2>

保護者「学校は進路実現の取り組みをしっかりとやっている」

(同 75.7%、同-7.1%)

生徒「進路実現に関する指導は適切に行われている」

(同 89.4%、昨年度比+0.6%) →差 13.7ポイント

生徒は本校の進路指導に高い満足度を示すものの、その取り組み等が保護者に伝わりきれていない可能性が考えられる。一方で「学校は教育情報について公開・提供の努力をしている」(同 91.3%、同 6.0ポイント)と情報の提供については高い数値が出ており、進路指導の取り組みについての情報発信を特に強化する必要がある。

その他の項目についても検証し、課題を見出して学校運営の改善をはかしていきたい。

今年度の保護者アンケートの結果については全体として高い数値が出ているものの、多くの項目で昨年度を下回る結果となった。情報提供の項目の数値は高かったが、必要な情報を必要なタイミングで丁寧に提供していくことができているのか、再度点検し適切な情報提供を通じて、本校の取り組みにご理解を頂き、保護者と共によりよい学校教育を作り上げていきたい。

【教職員】

教職員アンケートの結果についても、生徒、保護者同様、全体としては高い数値となっている上、昨年度と比較するとほぼすべての項目で数値が上がっている。特に「本校は授業外にも学習する機会を多く設けている」(肯定的評価 93.0%、昨年度比+15.3ポイント)、「担当の授業で自宅学習を促すような指導を工夫して行っている」(同 83.7%、同+17.1ポイント)、「担当する授業で必要な量の宿題を課している」(同 81.4%、同+18.4ポイント)といった項目で数値の上昇が顕著であり、本校の課題である「自宅学習時間0からの脱却」に向け、授業担当者が授業や課題の設定等で一層意識的に工夫を行っていることが、生徒の自宅学習時間の増加という結果につながっていると考えられる。

教職員と生徒の結果を比較すると、保護者と生徒の場合と同様、同一の項目であっても数値に開きがあるものが見受けられた。今年度の学校運営協議会において、「生徒の数値と教員の数値が乖離している項目については教員の独りよがりの部

・高等学校学習指導要領の改訂に伴い、「保健体育」に、40年ぶりに、精神疾患の項目を盛り込まれた。生徒に対する指導の前に、ぜひ、教員自らが研究・研修を深めてほしい。

・ぜひ、心の教育に関する教員研修を取り入れてほしい。

・今後の社会生活では、労働安全衛生の考え方が進み、科学的知識がさらに必要となる。ぜひ、学校教育活動でも取り組んでいただきたい。

〔第2回〕11月25日(金)

○授業見学を終えて

・生徒は意欲的に取り組んでいる様子。教室がすっきりとした感じで、後部黒板の担任からのメッセージが温かい。教え合いの手法でやる気を掻き立てている。

・生徒が真剣に取り組んでいる。うまく学習意欲を引き出しているところを高く評価する。

・電子黒板が30台設置されているなど、学習環境が他校に比べて進んでいるようだ。電子黒板の稼働率が高く、どの教員も使っている。

・ペア学習を取り入れていながら、単独学習していた生徒も見受けられたが、今少し工夫がいるのではないかと。学び合い、教え合いの授業の方向はいいと思うが。

○提言「部活動が盛んな進学をめざす総合学科としての展望

～自走化による「家庭学習時間0」からの脱却について～

(令和4年度の学校教育自己診断結果を資料として)

・家庭学習時間とは、授業外の自主的学習時間のことで、学校での放課後自習も含むもの。

・進路選択、進路決定に向けて生徒の意識を高めていくこと。すなわち、拙速な進路決定を避け、最後まで努力して、第一志望に合格してこなければならない。

・家庭学習時間0からの脱却の目的は、学習の強制から自走化へと転換していくこと。1年次は学校が生徒の背中を押し、2・3年次になれば自分で頑張っていける仕組みの構築が必要。

・学校内自習室の整備、学習支援クラウドサービスの活用、データ化による学力の可視化も一つの方策か。

・入学時から進路決定までの進路実現に向けたストーリーを描きながら、家庭学習時間増を睨んだ学習活動の充実への軌道をつくっていくべき。

・学校教育自己診断のほとんどの項目が80%を超えている。生徒が本校に入学して良かったと考えているということ。学校の地道な努力が結果に出ている。家庭学習時間については、中学校においても大きな課題。教員が意識して学習課題の質と量をしっかりと考えて提示しないと効果が上がらない。

・学校教育自己診断で60%台ぐらいの項目が学校の弱いところ考えればよいか。第三者的視点を持った総合能力のある人材を育てることが大事。

・学校の施設・設備の充実や生徒の困り感への丁寧な対応などにポイントが高いのは、保護者との学校へのイメージと合致している。

・部活動と家庭学習とが両立できるのか疑問だったが、時間管理も含めた自己コントロール力が養われて、部活動参加の方が自主的学習時間の長いことが分かり驚いている。部活動で培う力を学習へということだと理解した。

・アンケート結果に生徒と教員との乖離が見える。教員の自己評価だけが低い項目は自己満足に陥ることが危惧される。生徒の評価への寄り添いが必要。

・家庭学習時間の問題は、生徒が家庭等で自主的に課題をやらざるを得ない授業内容へと、教員が授業を工夫し転換していかなければならない。

〔第3回〕3月23日(木)

○令和4年度学校教育自己診断について

・「部活動の盛んな進学をめざす総合学科」の中心的コンセプトである「部活動が盛ん」と「進学をめざす」とを「総合学科」で結ぶ意義の確認と、相互に関連付けた取組み効果を考えることが大切だ。

・2%以上の上昇がある項目が昨年度に比べてかなり多くなっている。生徒、保護者、教職員にそれぞれにおける分析、または、関連させての考察が必要だ。

・家庭学習に関する項目において、生徒と教職員の数値に差がみられる。家庭学習の定義と内容についての共通理解が必要だ。「家庭学習とは」のイメージを統一すべき。

・筆問項目についても、より具体的で、より丁寧な文言にして、回答の幅がたりぶれたりしないように工夫すべき。

府立枚方なぎさ高等学校

分があるのではないかとのご指摘もあり、ここにも本校の課題が内在すると考えらえる。

<例1>

教職員「本校の教育活動は、他の学校にない特色がある」
(肯定的評価 95.3%、昨年度比+15.7ポイント)

生徒「この学校には他の学校にない特色がある」
(同 76.3%、同+4.0ポイント) → 差 19.0ポイント

この項目は1年生 71.0%、2年生 72.9%、3年生 86.5%となっており、学年が上がるにつれて、総合学科としての本校の特色に気づくものと思われるが、本校の特色を理解した上で入学できるよう広報の方法を一層工夫したり、1年次に「産業社会と人間」を通じて理解を促したりしていく必要がある。

<例2>

教職員「本校の教職員と生徒の間には信頼関係がある」
(肯定的評価 88.4%、昨年度比+10.6ポイント)

生徒「この学校の先生は信頼できる」
(同 76.0%、同昨年度比+4.7ポイント) → 差 11.4ポイント

教員が考えているほど生徒には信頼されていないのかも知れず、時には厳しくも生徒に寄り添える教員集団となるべく一層の努力が必要である。

<例3>

授業に関する項目では、昨年度と比較すると数値の開きは狭まっているものの、まだ教員と生徒の間にはとらえ方に差があるのが実際のところであり、授業改善には不断の努力を要する。

【全体】

これまで本校は、中心的コンセプトを「部活動が盛んな」「進学をめざす」に置いた総合学科高校として成長し続けることを目標に学校づくりを進めてきた。学習面においては、すべての学習に通じる基礎的・基本的な学力を向上させることはもちろんのこと、大学進学等の進路実現に向けてステップアップを図るための実践的・演習的な授業を数多く開講するとともに、や「総合的な探究の時間」では、進路選択や働くことの意味、将来を見据えた科目選択などについて考え、自らの今と将来を凝視していく機会としている。入学時から生徒それぞれの進路決定までの道筋に応じた生徒支援の仕掛けづくりに努めている。また、部活動に関しては、運動系、文化系ともに年を追うごとに活性化しており、学習活動を含めた高校生活全般を充実させたいという生徒たちの意識の変化がうかがえるところである。

この数年来、「授業以外での学習時間は1日平均1時間以上である」の数値が低迷し続けており、本校では「自宅学習時間0からの脱却」を掲げ、様々な取り組みを行ってきた。【生徒】の項で前述したとおり、過去5年間横ばい状況にあったその数値が、今年度は33.8%（昨年度25.2%）と改善の兆しが見えてきた、まだまだ決して高い数値ではなく、未だこの項目こそが本校の生徒の学習活動における最重要課題ではあることに変わりはないものの、今年度、および昨年度の進路実績等を鑑みても、これまで本校が取り組んできた教育活動の道筋が確かなものであることを物語っている。

教員の不断の研鑽による授業の質の向上と、生徒個々の「自主的学習への意欲喚起」及び「家庭学習時間の増」が両輪となり、生徒の一人ひとりの進路実現、自己実現へとつながっていくことを念頭に一層、緻密で効果的な仕掛けづくりを進めていきたい。

今後は、知的障がい生徒自立支援コースの理念である「ともに学び、ともに成長する」教育実践を進めるとともに、知的探究、国際文化、芸術表現、生活看護、地域創造という、将来の進路を見通した5つの系列を一層充実させる。さらに、これまでの点の取組みをつないで線とし、線の取組みを寄せて面となすよう、入学時から進路決定までの生徒の進路実現のストーリーを描きながら、学校生活の充実と進路実現に向けた「家庭学習時間0」からの脱却への道筋を確かなものへとしていく。生徒が、部活動で培った意欲、持久力、忍耐力、向上心・研究心、チャレンジ精神をもって、日常の学習の質を高める、そうすることでもう一つ高い学びのステージへと生徒たちを押し上げようという教育活動の仕組みを創り出していきたい。

【各項目について】

【生徒】

前年と比べて数値が2%以上上昇した項目

学校生活は充実している (+5.1)
この学校には他の学校にない特色がある (+4.0)
この学校に来てよかった (+6.8)
この学校の先生は信頼できる (+4.7)
いろいろと工夫がされている授業が多い (+9.9)
少人数・習熟度別選択授業は充実感がある (+6.2)
楽しくて、わかりやすい授業が多い (+9.7)
学校は授業以外でも学習する機会を提供している (+7.7)
授業以外での学習時間は1日平均1時間以上である (+8.6)
この学校の生徒たちの関係はとてよい (+6.6)
学校行事やHR活動には皆が楽しく参加している (+5.8)
部活動に積極的に参加している (+3.1)
学校では命の大切さや社会のルールを学ぶ機会が多い (+2.5)
学校では人権の大切さについて学ぶ機会が多い (+2.9)

- ・家庭学習課題の量と質の調整が必要だ。
- ・「学校は1人1台端末を効果的に活用している」について、主語は「生徒」か「学校」か、どちらなのか。回答者の受け止め方によって結果が異なるのではないか。
- ・同じく、生徒の数値と保護者の数値に差がみられるが、なぜか。端末の授業中での使用と、帰宅後の家庭での使用との違いが数値の差として表れているのではないか。
- ・生徒「授業以外での学習時間は1日平均1時間以上である」と教職員「授業等で自宅学習を促すような指導を工夫している」との数値の差を狭めていくことで、学校課題とその達成のための具体的な取組みが見えてくるのではないか。

○令和4年度「学校評価」及び令和5年度「学校経営計画」について了承される。

- ・学校情報の積極的な発信が志願者増の傾向に結び付いているのではないか。
- ・「部活動の盛んな進学をめざす総合学科」という、部活動をスローガンにするところが中学生の関心を集めているのではないか。

<p>学校の施設・設備は充実している (+11.4)</p> <p>前年と比べて数値が2%以上下降し75%未満となっている項目 なし</p> <p>40%に達しない項目 授業以外での学習時間は1日平均1時間以上である (33.8%)</p> <p>〔保護者〕 前年と比べて数値が2%以上上昇した項目 学校は特色ある教育活動に取り組んでいる (+3.1) 各教科からは必要な量の課題や宿題が与えられている (+5.3) 学校は人権尊重の教育を積極的に行っている (+4.5) 学校は教育情報について公開・提供の努力をしている (+6.0) 学校はいじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる (+4.9) 学校は保護者が授業や行事を参観できる機会を設けている (+30.2) 家庭では生徒とよく話す (+4.8)</p> <p>前年と比べて数値が2%以上下降し75%未満となっている項目 授業は楽しくて、わかりやすいようだ (-3.1) 生徒たちは部活動や行事などの課外活動に積極的である (-8.8) 校内の清掃は行き届いている (-4.2)</p> <p>40%に達しない項目 なし</p> <p>〔教職員〕 前年と比べて数値が2%以上上昇した項目 本校の教育活動は、他の学校にない特色がある (+15.7) 生徒が学校生活に満足感を得られるように配慮している (+2.6) 本校の教職員と生徒の間には信頼関係がある (+10.6) 担当する科目の教材の精選・授業内容の工夫を行っている (+3.3) 本校の少人数・習熟度別授業は生徒の理解度の向上に効果をあげている (+7.8) 担当する授業では丁寧でわかりやすい板書を常に心がけている (+2.7) 本校は授業以外にも学習する機会を多く設けている (+15.3) 担当の授業等で自宅学習を促すような指導を工夫して行っている (+17.1) 担当の授業で必要な量の宿題を課している (+18.4) 本校は進路実現に関する指導を適切に行っている (+4.6) 本校は生徒指導について生徒の納得が得られるよう努力している (+2.7) 生徒の悩みや相談にはていねいに応じている (+5.1) 生徒間の人間関係に留意し、いじめなどには適切に対応している (+10.7) 学校行事やHR活動で皆が楽しく参加できるように配慮している (+14.4) 本校は総合的な探究の時間を充実させるよう工夫している (+3.7) 本校は人権教育について適切な指導を行っている (+5.0)</p> <p>前年と比べて数値が2%以上下降し75%未満となっている項目 本校は部活動の活性化について工夫している (-5.3)</p> <p>40%に達しない項目 なし</p>	
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
<p>確かな学力育成のための教員の授業力の向上</p>	<p>(1) 「授業の質の向上」と「学びの保障」、家庭学習時間の増加</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・授業力向上委員会及び ICT 活用研究室会議を計画的に開催し、「授業の質の向上」と「学びの保障」に取り組むとともに、アクティブラーニングやユニバーサルデザインについての研究を進める。</p> <p>・自主学習スタイルのモデル化を進め、学びのサイクルのイメージ形成を行う。</p> <p>・1人1台端末の活用による学習支援を計画的に行い、学びの定着とともに家庭学習時間の増加を図る。</p> <p>イ ・授業力向上に向けた校内研修を企画し、教員間で「めざす授業」の共有化を図るとともに、「楽しくわかりやすい授業」を実践して生徒の学習習慣の定着を図る。</p> <p>・授業力向上を目的とした教職員研修を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・「学」いろいろ工夫されている授業が多い」前年度比2割増加 [70.3%]</p> <p>・「学」授業以外での学習時間は1日1時間以上である」前年度比2割増加 [25.2%]</p> <p>イ ・「学」楽しくて、わかりやすい授業が多い」前年度比2割増加 [63.2%]</p>	<p>学は生徒向け学校教育自己診断 (1)</p> <p>ア ・「学」授業の工夫」80.5% (10.2割増) (◎)</p> <p>・「学」授業以外での学習時間は1日1時間以上である」33.6% (8.4割増) (○)</p> <p>増加したポイント幅は大きい、肯定的数値そのものは低い段階にある。</p> <p>イ ・「学」楽しくてわかりやすい授業」75.2% (12.0割増) (◎)</p> <p>・授業力向上委員会の企画により授業見学月間を設定し、研究協議を年2回実施した。</p>
	<p>(2) 学校経営推進費を活用して設置したHR教室の電子黒板機能付プロジェクタの活用</p>	<p>(2)モデル授業者や各教科代表者による ICT 機器を活用した研究授業と研究協議を実践する。</p>	<p>(2) 前年度と同様程度の回数の ICT 機器活用に関する教職員研修を実施する。 [6回]</p>	<p>(2) ICT 機器の活用及びオンライン授業にかかる研修・協議等 3回 (△)</p> <p>1人1台端末の積極的な活用をめざし、教員間で認識の差が生じないように、「オンライン授業通信」を継続して発行し、情報共有を図った。</p>

府立枚方なぎさ高等学校

	<p>(3) 研究授業や教員同士の授業観察の活性化</p>	<p>(3)</p> <p>ア 授業アンケートの振り返りシートを全教員が作成する。</p> <p>イ 研究授業を学校全体で行うとともに、授業観察シートを全教員が作成する。</p> <p>ウ 近隣中学校との授業交流を活性化する。</p>	<p>(3)</p> <p>ア 授業アンケートの学校全体の平均値前年度より上昇 [3.34]</p> <p>イ ICT 機器を活用した研究授業 2 回以上 [2 回]</p> <p>ウ 近隣中学校との授業交流参加人数の R1 年度以上の増加 [R1 30 人] ※感染症拡大防止のため R2 と R3 は実施していない。</p>	<p>●毎時多くの教室で ICT 機器が稼働しており、授業の「なぎさスタンダード」が形成されつつある。</p> <p>(3)</p> <p>ア 授業アンケート学校全体の平均値は上昇 3.42 (○)</p> <p>イ 全体の研究授業 2 回 (○)</p> <p>ウ 感染症感拡大防止のため、近隣中学校との授業交流は実施できなかったが、地域創造系列における「総合的な探究の時間」の取組みとして、10 班 (10 事業所等)に分かれ、各事業所等との連携・協力、担当者からの指導・助言のもと、探究活動を進め、隣接小学校との相互訪問を実施した。(○)</p> <p>●「確かな学力」を育むため、カリキュラム委員会・授業力向上委員会・ICT 活用研究室の取組みをさらに充実させ、教員の授業力向上と生徒の進路実現をさらに直結させていく。</p>
<p>キャリアデザイン力育成のための進路指導の充実</p>	<p>(1) アクティブラーニンググループやキャリアサポートルームを有効活用したキャリア教育の実践</p> <p>(2) 進路実現に向けた本物・最先端に触れる活動の充実</p> <p>(3) 進学講習の充実による希望する進路の実現</p>	<p>(1)</p> <p>ア 進学説明会や進路面談、模擬面接等をアクティブラーニンググループ及びキャリアサポートルームで開催するなど、進路指導や HR で有効に活用する。</p> <p>イ 3 年間トータルの系統的なキャリア教育の策定</p> <p>(2)</p> <p>ア 「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間」、LHR 等を通じて、進路実現に向けた学習活動を充実させる。</p> <p>イ 連携先の大学を開拓するとともに、アカデミックインターンシップを実施する。</p> <p>ウ 英検やワープロ検定等、各種検定の受験、資格取得の促進</p> <p>(3)</p> <p>ア 学校設定教科・科目「軌跡」及び「深学」を工夫・改善するとともに、組織的な進学講習の体制づくりを進める。</p> <p>イ 一つ上の高みをめざす進路選定を勧奨しつつ、生徒の進路希望の実現を支援する。</p>	<p>(1)</p> <p>アイ ・進路希望実現率の前年度比 2 割増加 [96.0%]</p> <p>(2)</p> <p>ア 「<input checked="" type="checkbox"/>進路実現に関する指導は適切に行われている」前年度比 2 割増加 [88.8%]</p> <p>イ 大学との連携活動回数の R1 年度比 5 割増加 [R1 95 回] ※感染症拡大防止のため R2 と R3 は実施していない。</p> <p>ウ 各種検定、資格取得者数の昨年度以上の増加 [54 名]</p> <p>(3)</p> <p>ア 「<input checked="" type="checkbox"/>学校は授業以外でも学習する機会 (講習会・検定など) を提供している」前年度比 2 割増加 [71.6%]</p> <p>イ 難関大学 (関関同立・産近甲龍) の合格の前年度比 20% 増加 [4 名]</p>	<p>(1)</p> <p>アイ 進路希望実現率は 97.4% (1.4 割増) (△)</p> <p>・放課後の積極的な自主的学習の習慣化を狙いとして、キャリアサポートルーム、会議室、図書室を自習室として整備・開放した。</p> <p>・「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」などを活用して、学年進行で自らの進路、職業観、生き方に対する考えを深めさせた。</p> <p>(2)</p> <p>ア 「<input checked="" type="checkbox"/>進路実現に関する指導は適切に行われている」90.1% (1.3 割増) (△)</p> <p>イ 大学との連携活動回数 78 回 (△)</p> <p>ウ 各種検定、資格取得者数 70 名 (◎)</p> <p>(3)</p> <p>ア 「<input checked="" type="checkbox"/>学校は授業以外でも学習する機会 (講習会・検定など) を提供している」79.9% (8.3 割増) (◎)</p> <p>イ 難関大学 (関関同立・産近甲龍) の合格者 6 名 (○)</p> <p>●進路実現に向けて、「家庭学習時間 0」からの脱却を図るため、「学びの自走化」を進める必要がある。</p>
	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立とマナー指導の徹底及び安心・安全な学校環境づくり</p>	<p>(1)</p> <p>ア 感染症拡大防止対策及びその指導、遅刻指導や身だしなみ指導を粘り強く行い、生徒が安心・安全な学校生活を過ごせるよう、基本的な生活習慣を定着させる。</p> <p>イ 学年連携会議等で、生徒指導や行事活動などの学年間の調整を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・年間遅刻者数の前年度比 5 割以上減少 [1275 回]</p> <p>・「<input checked="" type="checkbox"/>先生は悩みや相談ごとには丁寧に応じてくれる」前年度比 2 割増加 [78.5%]</p> <p>イ 「<input checked="" type="checkbox"/>学校生活についての先生の指導は納得できる」前年度比 2 割増加 [64.7%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・年間遅刻者数は 1231 回 (44 割減) (○)</p> <p>・「<input checked="" type="checkbox"/>先生は悩みや相談ごとには丁寧に応じてくれる」80.5% (2.0 割増) (○)</p> <p>イ 「<input checked="" type="checkbox"/>学校生活についての先生の指導は納得できる」66.9% (2.2 割増) (○)</p>

府立枚方なぎさ高等学校

<p>社会人基礎力育成のための生徒指導の徹底と生徒の自主性の伸長</p>	<p>(2) リーダーの養成及びHRや委員会・生徒会、学校行事の更なる活性化</p> <p>(3) 部活動の活性化</p> <p>(4) 地域連携のさらなる充実</p>	<p>(2) リーダー研修を実施し、生徒会や各種委員会が中心となって、体育祭や文化祭などの行事活動を活性化させる。</p> <p>(3) 部活動紹介や体験入部の方法等を工夫することにより、入学時の入部率を上げ、部活動の活性化を図る。</p> <p>(4) 防災訓練や土曜講座など、保護者や近隣の小中学校、磯島地区コミュニティ協議会とのさらなる連携をすすめる。</p>	<p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「$\text{\textcircled{学}}$学校行事やHR活動には皆が楽しく参加している」前年度比2割増加 [82.2%] ・生徒会及び部活動員を対象としたリーダー研修を実施する。 <p>(3) 部活動加入率の前年度比2割増加 [58.7%]</p> <p>(4) 地域活動参加回数のR1年度比5割増加 [R1 36件] ※感染症拡大防止のためR2とR3は実施していない。</p>	<p>挨拶をする、時間を守る、身だしなみを整える、毎日机に向かって学習するなど、小さな努力を積み重ねるよう、日常生活のあるべき姿を厳しく求める中、指導に対する生徒の理解がより進んだ。</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「$\text{\textcircled{学}}$学校行事やHR活動には皆が楽しく参加している」88.8% (6.6割増) (○) コロナ禍にあつて、学校行事の規模縮小など活動が制限される中、生徒会及び部活動員を運営委員とした行事活動を維持し、生徒目的意識を低下させず、評価を上昇させた。 ・部活動のキャプテン会議を定期的に行うなど生徒会及び部活動員を対象としたリーダー研修を実施した。(○) <p>(3) 部活動加入率は60.8% (2.1割増) (○)</p> <p>(4) 感染症感拡大防止のため、従前の地域活動への参加はできなかったが、学校設定科目「防災入門」の取組みとして、地元自治会との連携・協力のもと、地域の防災意識についての調査活動を進め、地域住民アンケートの分析結果をまとめ、地元公民館で発表会を開催した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●授業内規律や基本的な生活習慣を確立するため、引き続き共感的生徒指導の徹底を図っていく必要がある。 ●生徒のリーダーシップ養成を図り、生徒会活動や部活動の自治化と活性化を図っていく必要がある ●「総合的な学習の時間」等を活用した地域連携の在り方を模索する必要がある。
<p>社会人形成能力を育成するための人権教育や特別支援教育の充実</p>	<p>(1) 高校3年間を通じた人権教育の推進</p> <p>(2) 高等学校支援教育力充実事業のサポート校としての取組みの充実</p> <p>(3) ユニバーサルデザインの授業実践の活性化</p>	<p>(1)</p> <p>ア 入学年次の「産業社会と人間」を同和教育・人権教育の観点から組み立てるなど、SNS等の今日的課題にも対応した3年間トータルの人権教育を行う。</p> <p>イ 3か年を通じた同和教育・人権教育がより系統的に実施できるよう、人権をテーマとした教職員研修を計画的に実施する。</p> <p>イ アンケート等により把握したいじめなどの事象に迅速に対応する。</p> <p>(2) 生活看護実習室を活用して、インクルーシブ教育をさらに進めるとともに、支援教育サポート校としての取組みを充実させる。</p> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活看護実習室を活用して、ユニバーサルデザインの授業実践に取り組み、「ともに学び、ともに育つ」教育活動をさらに推進する。 ・授業力向上と授業改善を目的とした教職員研修を実施する。 	<p>(1)</p> <p>ア 「$\text{\textcircled{学}}$学校では人権の大切さについて学ぶ機会が多い」前年度比2割増加 [75.4%]</p> <p>イ 「$\text{\textcircled{学}}$学校は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」前年度比2割増加 [81.1%]</p> <p>(2) 訪問・来校相談、研修・講演回数 の前年度比5割増加 [訪問・来校(電話)相談9件、研修・講演10回]</p> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「$\text{\textcircled{学}}$この学校の生徒たちの関係はとてよい」前年度比2割増加 [77.5%] 	<p>(1)</p> <p>ア 「$\text{\textcircled{学}}$人権の大切さを学ぶ機会」78.7% (3.3割増) (○)</p> <p>イ 「$\text{\textcircled{学}}$学校は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」82.3% (1.1割増) (△)</p> <p>(2) 支援教育サポート校としての相談等が増加した。訪問・来校(電話)相談27件、研修・講演6回(○)</p> <p>(3) 「$\text{\textcircled{学}}$この学校の生徒たちの関係はとてよい」84.4% (6.9割増) (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人権教育や支援教育に関する取組みを充実するとともに、支援教育サポート校として北河内地域の教員の専門性の向上に寄与していく。

府立枚方なぎさ高等学校

魅力ある総合学科づくり	<p>(1) 特色ある教育課程の編成を行うなど、カリキュラム・マネジメントに力を入れる。</p> <p>(2) 「魅力ある総合学科」を作っ て、情報発信するなど、広報活動に力を入れる。</p> <p>(3) 全校一斉退庁日やノークラブデーの明確化により教職員の時間外勤務の削減を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・既成の再編PTを転成させた「SNGs(持続可能な枚方なぎさの目標)会議」や教職員研修で、新教育課程の導入における課題を整理し、引き続き研究を進め、5つの系列の特長をつくり出す。</p> <p>・「観点別学習の評価」に関する教職員研修を企画し、工夫と充実を図る。</p> <p>イ 新学習指導要領の年次進行に伴い、さらなる取組みに向けた議論を進める。</p> <p>(2)</p> <p>ア 中学校訪問など中学校との連携を活発に行うとともに、学校説明会の実施形態と内容、開催時期、回数を工夫し、昨年度に引き続き、集合型説明会及びオンライン説明会を開催するとともに、新規の取組みとして個別相談会や出前説明会などを企画・実施する。</p> <p>イ PTA等と協力して、保護者に学校行事に積極的に参加してもらうなど、保護者との信頼・協力関係をさらに進める。</p> <p>(3) 教職員の負担軽減を進めるとともに、全校一斉退庁日やノークラブデーの明確化や校内組織と業務分担の工夫により、教職員の時間外勤務の削減をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>アイ 授業力向上委員会を中心に課題を整理し、「観点別学習の評価」に特化した教職員研修を2回実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 集合型及びオンライン学校説明会出前説明会、個別相談会を併せて年間10回以上開催する。</p> <p>・令和3年度入試以降の志願倍率1.1倍以上を維持する [1.13倍]</p> <p>イ 保護者向け学校教育自己診断の提出率の向上 [82.4%]</p> <p>(3) 教職員の一人当たり時間外勤務時間数の前年度比2%削減 [約36時間]</p>	<p>(1)</p> <p>ア 既成の「再編PT」を「SNGs(持続可能な枚方なぎさの目標)会議」として転成させ、学校の方向性にかかわる課題について議論し提案できるよう、分掌「企画・広報室」の下位組織として位置付けた。(○)</p> <p>イ 「観点別学習の評価」について、教科実践報告会を2回企画し、今日的評価の在り方について共通理解を進めた。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア ・校内外における学校説明会及び個別相談会を4月から平均月一回以上週休日に実施し、加えてオンラインによる説明会や平日放課後の個別相談会を実施した。20回(◎)</p> <p>・令和5年度年度入試の志願倍率(1.10倍)(○)</p> <p>イ 保護者向け学校教育自己診断の提出率40.1%(42.3%削減)(△)</p> <p>・紙面回答からgoogleフォームによる回答へとアンケート方法を変更したことが目標未達の原因と考えられるため、次年度へと課題とする。</p> <p>(3) 教職員の一人当たり時間外勤務時間数は約35時間(○)</p> <p>感染症が拡大する以前の令和元年度に比して5時間の減少となっており、教職員の意識が進んだと考えられる。</p> <p>●「部活動が盛んな進学をめざす」総合学科の魅力を打ち出すため、キャリア教育の基盤として「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」を工夫するなど、生徒が意欲的に将来設計図を描くよう仕組みづくりをさらに進める。</p> <p>●多忙な教職員のサポート体制を確立し、引き続き時間外勤務の削減に取り組んでいく。</p>
-------------	--	--	---	--